

市町村名又は学校名	智頭町立智頭小学校	HP 用
研究主題	学校・医療・家庭で取り組む相談指導の在り方 ～「チームちづ」で進める相談指導を目指して～	
<p>1 智頭小学校および学校給食の概要</p> <p>智頭小学校が所在する智頭町は、「みどりの風が吹く疎開のまち」として、有名な石谷家住宅に代表される智頭宿があり、350年以上もの長い歴史を誇る智頭林業が栄えたまちとして知られている。</p> <p>本町には、保健・医療・福祉の三位一体のサービスを提供するため、平成16年に「智頭町保健・医療・福祉総合センターほのぼの」が開設されており、まちの医療の要である「智頭病院」とともに、同じ敷地内に、高齢者を支える特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、さらに、社会福祉協議会、保健センターが設置されている。</p> <p>そして、智頭病院地下には、総合給食センターとして、病院と特養のための厨房と、町内の児童生徒に学校給食を提供する学校給食センターがあり、現在、小学校310食、中学校155食、センター職員分を含め1日約480食の給食を提供している。</p> <p>今年で統合後10年目をむかえる智頭小学校は、開校当初より「ゆめに向かってのびる杉っ子」を学校目標にかかげている児童271名の学校である。</p> <p>2 児童の実態</p> <p>休み時間には校庭で体を動かし力いっぱい遊ぶ児童が多い。通学方法は徒歩通学の児童とバス通学の児童がおり、約6割の児童がバスを利用している。健康課題としては、肥満度20%以上の児童が令和2年は7.7%、令和3年度は8.1%と近年増加の傾向にある。給食の残量を見ると、野菜やきのこ類を使った和食のおかずの残量が目立ち、料理によっては1割以上残ることもある。原因として食べ慣れない料理や食材への抵抗感や、偏食が考えられる。</p> <p>3 主題設定の理由</p> <p>将来の健康の保持増進や肥満が原因となる生活習慣病の予防には、いろいろな食材や料理を体験し、好き嫌いなくなんでも食べる食習慣を身に付けたり、無理なくできる運動を継続してすることの大切さを知ることが必要である。そのためには家庭との連携が欠かせないと考え、肥満傾向にある児童およびその保護者を対象とした個別指導を実施することとした。</p> <p>4 取組の実際</p> <p>本校では、養護教諭が作成する学校保健年間計画に沿って、年間を通して保健管理や保健教育に学校全体で取り組んでいる。その中で、学期ごとに定期的実施している「身体測定」や毎年5月に実施している「内科検診」の結果から、養護教諭と学校医によって総合的に判断がなされ、相談指導が必要だと判断された児童に対し、栄養教諭による相談指導が実施される。</p> <p>具体的には、まず、養護教諭が定期身体測定および内科検診の結果から「児童生徒等の健康診断マニュアル」によって成長曲線・肥満度曲線を作成し、体重の病的な増加や減少などといった異常がみられる児童がいないか確認し、一定の項目に対して疑いがある児童を抽出する。その後、学校医に判断を仰ぎ、学</p>		

校医が疾患による異常等がないか診断し、その結果、単純性肥満などに由来する肥満傾向の児童に対して、栄養相談を実施するようとの判断が出される。（図1）

（図1） 実態把握の流れ



相談指導の実際には、相談指導当日までに、身長、体重、成長曲線および肥満度を確認する。保護者による食事調査（希望者）の提出がある場合は、平日および休日の食事内容を確認する。当日は、保護者に対して対象児童の身体状況を報告し、普段の食事内容や食習慣、運動習慣、その他の生活習慣について聞き取り調査を行う。その後、聞き取った内容や見えてきた課題について、具体的な指導を行い、今後の行動計画を確認する。（図2）

今回、学校医によって抽出された16人の内、保護者による希望があった5人に対して栄養相談を行った。

（図2） 相談指導当日の流れ



5 成果

保護者との面談は対象者に対して1回のみを設定であったが、話を進める中で日々の食事についての悩みや、運動習慣について把握でき、よりその家庭に寄りそった指導につながった。また、保護者との良好な関係を築くことができ、その後の指導にもつながったと考える。

6 課題

課題として、ひとつは個別指導につながらなかった児童に対してのサポートの問題である。学校内での集合型の個別指導や、肥満を原因とした生活習慣病予防の観点から給食の時間および教科等の授業を活用した全体指導に加え、定期的な体重測定の実施にあわせ、身体状況の把握を養護教諭の協力のもと行っていく必要があると考える。

指導方法の課題としては、聞き取り表の整備がある。事前に把握できている身体状況のほかに、指導計画を立てるために保護者から聞き取りしておく必要がある事項を精査し、高い精度で状況をつかんでおくための聞き取り表の整備が急がれる。

7 今後の取組

・福祉課 管理栄養士および保健師との連携

対象児童の状況を報告し、校内のケース委員会の中で計画や実施内容について指導助言をもらう体制を整備したい。また、肥満等の対象児童および希望者に対して、福祉課と連携し、「親子料理教室」の計画運営について取り組みたい。